

2020年9月2日(日)朝10:10

聖霊降臨節第15、自由交歓会等

9月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：偽善者への主のことば(3～)

聖書:マタイ 15章1～9節

<口語訳>

新約聖書24～ 頁

マタイ 15章1～9節

<新共同訳>

新約聖書29～ 頁

マタイ 15章1～9節

<新改訳第3版>

新約聖書29～30頁

マタイ 15章1～9節

<塚本訳>

新約聖書113～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ15:1～9節**の「**偽善者への主のことば(3～)**」の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、昔の人々(長老；新改訳2017)の言い伝えにこだわる**ユダヤ人指導者パリサイ派の人々・律法学者**に十戒のことばを以て、「言い伝えによって、神のことばを無にしている」(6)と、指摘されました。
- ⇒「口先ではわたし(**御子イエス・キリスト様**)を敬うが、その心はわたしから遠く離れている」と、仰せになりました。
- ⇒「人間のいましめを教えとして教え、無意味にわたしを拝んでいる」とも、語られました。
- ⇒**ユダヤ人指導者**が、人間が考え出した言い伝えを**神のことば**より優先していると言われたのです。

本論；

◇本日、**マタイ書15:1～9節**から主の**使信**に
思い・心 $\nu\omicron\upsilon\varsigma$ (nouj)をとめます。

◆**マタイ15章1～9節**；使徒**マタイ**は、
「**偽善者への主のことば**(3～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**15:1～9節**；塚本訳◆**洗わぬ手**

- 「1 そのころパリサイ人と聖書学者たちがエルサレムからイエスの所に来て、
- 2 「あなたの弟子はなぜ先祖の言伝えをふみにじるのか。食事をする時に手を洗わないではないか」と言った。
- 3 彼らに答えられた、「では(わたしも)一つ尋ねる、あなた達も自分の言伝えで神の掟をふみにじているが、あれはどうしたのか。
- 4 神は、『父と母を敬え、』また『父または母を罵る者は必ず死に処せられる』と言われたのに、
- 5 あなた達はこう言うのだから。——『父または母にむかって、わたしがあなたに差し上げるはずのものは(神への)供え物にする、と言う者は、

- 6 父または母を敬わなくてよろしい(、扶養の義務をまぬかれる)』と。こうして、あなた達は自分の言伝えで神の言葉を反故にしている。
- 7 偽善者たち！イザヤはあなた達のことをこう言って預言しているが、うまいものである。
- 8 『この民は口先でわたし[神]を敬いながら、その心は遠くわたしから離れている。
- 9 彼らは(熱心に)わたしを拝むが無駄である、彼らが教えとして教えているのは、人間の(作った)規則であるから。』と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ15:1～9節**；「そのころパリサイ人と聖書学者たちがエルサレムからイエスの所に来て(1)、「あなたの弟子はなぜ先祖の言伝えをふみにじるのか。食事をする時に手を洗わないではないか」と言った(2)。「彼らに答えられた、「では(わたしも)一つ尋ねる、あなた達も自分の言伝えで神の掟をふみにじっているが、あれはどうしたのか(3)」。「神は、『父と母を敬え、』また『父または母を罵る者は必ず死に処せられる』と言われたのに(4)、あなた達はこう言うのだから。——『父または母にむか

って、わたしがあなたに差し上げるはずのものは(神への)供え物にする、と言う者は(5)、父または母を敬わなくてよろしい(、扶養の義務をまぬかれる)』と。こうして、あなた達は自分の言伝えで神の言葉を反故にしている(6)。「偽善者たち！ イザヤはあなた達のことをこう言って預言しているが、うまいものである(7)、『この民は口先でわたし[神]を敬いながら、その心は遠くわたしから離れている(8)。彼らは(熱心に)わたしを拝むが無駄である、彼らが教えとして教えているのは、人間の(作った)規則であるから。』(9)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人々・律法学者**」を「偽善者」と言われました。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人々・律法学者**」に、『この民は口先でわたし[神]を敬いながら、その心は遠くわたしから離れている(8)。彼らは(熱心に)わたしを拝むが無駄である、彼らが教えとして教えているのは、人間の(作った)規則であるから。』(9)と語り、ともにいる弟子たちに、

何を大事にするべきかを明確に示されたのです。

⇒「**パリサイ派の人々・律法学者の言い伝え**」は、衛生管理からは、正しいのですが、彼らの心が、「**御子イエス・キリスト様**」を排除することが、目的で律法を守ることより、**ユダヤ人社会**の秩序を保つことが大事な者でした。

⇒私たちも、主にお従いするよりも、秩序を大事にする誘惑があります。

⇒**ユダヤ人指導者**は、「『父または母にむかって、わたしがあなたに差し上げるはずのものは(神への)供え物にする、と言う者は(5)、父または母を敬わなくてよろしい(、扶養の義務をまぬかれる)』と。こうして、あなた達は自分の言伝えで神の言葉を反故にしている(6)」と、主が指摘されましたように、**神への供え物**(アラム語;コルバン、ヘブル語;ドーロン)(5)でイザヤ29:13の「【口語訳】主は言われた、「この民は口をもってわたしに近づき、くちびるをもってわたしを敬うけれども、その心はわたしから遠く離れ、彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、そらで覚えた人の戒めによるので

ある。」の通りに行っていると、仰せになったのです。

⇒**ユダヤ人指導者**は、偽りの礼拝をしつゝ、主の真実の思いを感じとることができませんでした。

⇒主の弟子たちは、失敗は多くしましたが、主がどなたで、何のために世に来て下さったかを感じ取っていました。

⇒【口語訳】ヨハネ4:23～24

23 「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

⇒礼拝は、自分の言い伝え・主義主張を通すことではなく、弟子たちのように、自分の罪深さを知って、主の憐れみにおすがりすることです。

⇒**OA師**が指摘されますように、目の前の荒海は、渦巻く死の世界です。それを乗り切るために、必要なのは、差し伸べられた主の手を

握ることです。ペテロも、湖の上を歩くことはできると思っていなかったのに、「歩かせて下さい」と言ったのです。荒海を見て、溺れそう数になり、「主よ、お助けください」と、叫んだのです(14:30)と。

⇒「**偽善者**への**主のことば**(3～)」は、**神のことば・戒め**を守れないのに、守れる振る舞いをすることです。言い張ることです。

⇒伝統も、大事ですが、126年の間、主が共にいて下さったことが、もっと大事です。

⇒イザヤは、29:1で、エルサレムのことをアリエル(神殿の炉、祭壇の炉)と呼んでいますが、「**神**(わたし)にとって祭壇の炉のようになる」(イザヤ29:3)と言い、不信のエルサレムとその民の不信を嘆いているのです。

⇒「**偽善者**」は、滅びるだけ、これに関わって同じ滅びの道を行くなど、主は言われます。

⇒【口語訳】マタイ5:37

あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日は**マタイ15:1～9節**の「**偽善者への主のことば**(3～)」の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」を知りたいと思います。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、昔の人々(長老；新改訳2017)の言い伝えにこだわる**ユダヤ人指導者パリサイ派の人々・律法学者**に十戒のことばを以て、「言い伝えによって、神のことばを無にしている」(6)と、指摘されました。

⇒「口先ではわたし(**御子イエス・キリスト様**)を敬うが、その心はわたしから遠く離れている」と、仰せになりました。

⇒「人間のいましめを教えとして教え、無意味にわたしを拝んでいる」とも、語られました。

⇒**ユダヤ人指導者**が、人間が考え出した言い伝えを**神のことば**より優先していると。

⇒【口語訳】ピリピ°3:3

神の霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。